

第12期 松戸市緑推進委員会
第10回 委員会

1. 日時 令和6年5月8日(水) 10:00~11:40
2. 場所 松戸市役所 市民サロン (新館5階)
3. 出席者

○緑推進委員

柳井重人・木下 剛・平岡 考・高橋盛男・河合直志・石川静枝・藤田博美・藤田 隆・
上野義介・梶谷有三・並木能子・河野芳久・増木宏行

○松戸市

保木正継 (街づくり部審議監)
布施 優 (公園緑地課課長)
飯沼 修 (21世紀の森と広場管理事務所所長)
福田勝彦 (みどりと花の基金理事長)
田辺久人 (みどりと花の基金事務局長)

○兼事務局(みどりと花の課)

三末容央(課長)・木村高德(補佐)・木原 茂(補佐)・中山 茜(主査)・今井涼太(技師)・
日笠朋美(技師)・岩田 昇(主査)

○傍聴 0名

事務局より本委員会の成立について、委員15名中13名の出席により成立している旨報告あり。

4. 議事次第

1 開会

2 議事

- 1) 議事要録の確認
- 2) 緑と花のフェスティバル 2024 について
- 3) 提言及び活動報告について
- 4) その他

3 連絡事項

4 閉会

議事1) 議事要録の確認について

会長

事前に送付した第9回委員会の議事要録について異議はあるか。
無ければこれを以て議事要録とする。

——承認——

議事2) 緑と花のフェスティバル2024について

会長

議事2 緑と花のフェスティバル2024について、事務局から説明をお願いします。

事務局

議事の説明の前に、まずお手元の資料を確認させていただきます。

資料1「緑と花のフェスティバル参加報告」

資料2「メッセージブックのアンケート結果」

資料3「第12期委員会提言報告書案」

資料4「委員会の提言及び活動報告作成スケジュール案」となります。

追加資料で、メッセージブックアンケートのA3用紙2枚、マグノリアコンサートのチラシ、以上が本日の配付資料でございます。

緑と花のフェスティバル2024について、まず松戸みどりと花の基金から一言ご挨拶がありますので、お願いいたします。

松戸みどりと花の基金

みどりと花の基金です。緑と花のフェスティバルにつきましては、4月29日、9時半より、21世紀の森と広場つどいの広場の方で開催させていただきました。

当日は来園者1万3166名ということで、昨年度の1万1700名から約12%ほど来園者数も増加しているということでございます。

当日は天気も良く、大変盛況のうちに終わらせていただきました。

参加団体につきましては、昨年よりも4団体ほど増えまして、ほぼコロナ前と同等の参加団体数に戻ってきたという印象です。

反省点ということではないのですが、当日金ケ作陣屋研究会の展示の方で、具合が悪くなった方が1名出て救急搬送されたというような事案がありましたが、そのまま病院に入院されて大丈夫だったと報告を受けております。

この時期は急に暑くなるものなので、水分の補給等十分とっていただくように、今後はご案内していこうかと思っております。

今年は会場の奥の方で、シャボン玉を行いました。なかなか会場の奥に人が行ってくれないというお話をいただいていたのですが、今年度につきましてはそのおかげで、奥まで来場があったという印象でございます。

緑推進委員会の皆様につきましては、みどりのライフスタイルの提案とパネル展示ということで参加いただきまして、ありがとうございました。

今後ともよろしく願いしたいと思っております。

事務局

緑と花のフェスティバルへの参加については、前回の委員会にて参加を承認いただいたところですが、5月5日に21世紀の森と広場で開催されました松戸モリヒロフェスタ子どもの王国についても、今回のみどりのメッセージブックのペルソナ世代が参加すると思われましたので、事務局の

判断で参加いたしました。

2つのイベントにおいて緑推進委員会ブースを出展いたしまして、みどりのメッセージブックの配布、アンケート、メッセージブックで案内しております草花あそびのワークショップを行いました。

両日ともブースは、大変なにぎわいで、常に席が満席になるような状態でした。

メッセージブックは1500部発行いたしまして、今回の2つのイベントで420部を配布いたしました。草花あそびは、フェスティバルの方では、メッセージブックでインタビューしております相澤先生の方にご協力いただきました。アンケートについてですが、4月29日と5月5日で合計153件の回答をいただきました。集計した段階のため、分析ができておりませんが、これから分析して、今後のメッセージブック発刊の参考にしていきたいと思います。

このアンケートの結果ですが、全数を取りまとめたものと、イベントごとに集計したものをつけております。

イベントの参加者の世代に違いがあり、アンケート結果に違いが出ておりますので、ご覧ください。

メッセージブックを配布した手ごたえとしては、冊子として読み応えがあるといったようなご意見もありまして、見ていただいた方の満足度も高かったように感じます。アンケートの内容に、好感が持てたかという質問がございまして、好感を持てた、どちらかといえば好感を持てたという回答をいただいた方が94.7%いらっしゃいますので、概ね満足いただいたかと思います。

今回、パイロット版として発刊したところですが、今後はペルソナを設定した世代ごとに継続して発刊して参ります。

会長

当日ご出席いただいた委員の皆さんから、一言ずつコメントいただければと思います。

委員

ああいった形で参加させてもらうのは初めてだったのですが、皆さんすごく関心があるという印象を持ちました。

声掛けする材料として、相澤先生のワークショップを案内しました。お年寄りでも結構関心あるのではないかなという印象を持ちました。

みどりというものを理解していただく第一歩としては、すごく効果的であると感じました。

子どもたちは、率直に楽しそうだからという形で来ていましたが、恐らく大人になってからも、ああいったことは忘れないのではないのかなという感想を持ちました。

すごくいい活動だったのではないかと感じました。

委員

私はアンケートを担当しました。今回、数多くの方々が気持ちよくアンケートに参加していただきました。また好評であったということが、これからメッセージブックを作成するにあたって大きな一歩になったのではないかと思います。

委員

複数年という軸でとらえた場合、回を重ねるごとに来場者の家族構成や興味関心の度合いが少しずつ変わってきているのを感じました。

今回に限って言えば、かなり目的意識が明確だったように思います。お花を配ったり、ゲームや草花あそびであったり、そういったものを明らかにやりたいという志向みたいなものが感じられた気がします。

先ほど委員が言われたように、声かけをしてその場でパンフレットを見てくださる方が、思ったより多かったと感じます。

こちらのアンケートのコメントにもありました、次号が待ち遠しい、楽しみという声が拾えているわけで、よりみんなに興味関心を持ってもらえるコンテンツを考えていく必要があると思います。

委員

お子さんがパツと入ってきてみんな楽しそうにやっておられて、とてもうまく回ったなというふうに思いました。

率直な感想として、僕自身はいろんな植物に色塗ってパンダにしちゃったりするのは、趣味じゃないです。そのものの造形があるわけで、それが美しいと思っていますが、みんなとっても楽しんでやっていたと思うので、そういうところがよかったなと思います。

ただ、説明の仕方で、子どもと大人、誰に伝えるかということですが、出されてきたものに色を塗るのであれば、これはメタセコイアの実で、どこにありますという説明が欲しかったです。これは身近な公園にある木から取ってきたものですよというのを、もう少し前に出してもよかったかなと思いました。出されてきた材料に塗るワークショップになっているという感じがしました。この不思議な形のものが、身近なみどりのあの場所の木の実ですよ、とつながるちょっとした一言があってもよかったかと思いました。本当は、お子さんに塗ってもらうのも、「じゃあ拾いに行きましょう。拾ってきました。塗りました。」という一連のパートを、こうやって出してきた凝縮してると思うので、一言がもっとあってもいいかなと思いました。お客さんがずっと入っていて、とてもうまく回っていたと思います。ありがとうございました。

会長

緑推進委員会ブースではなくても、参加されたところがあれば、一言お願いします。

委員

私は、緑推進委員会とみどりのネットワークまつど、それから里やま応援団と3つ渡り歩きました。緑推進委員会では、メッセージブックと草花あそびの声掛けをしました。里やま応援団では、草花あそび、みどりに関心を持ってもらうための素材として、シュロを使ったキングヨづくりをしました。シュロは森の中ではとても邪魔な存在なのですが、今回は捨てられてしまうようなものを素材にして、みどりに関心を持たせるという意味で、関心を持ってもらえたのかなと感じました。

今回は奥に里やま応援団と並んでシャボン玉のゾーンがありまして、そちらに子どもたちが寄せ

られていました。里やま応援団がブースを作ってパネル展示をしていたのですが、どちらかというとシャボン玉にひかれていていました。

草花あそびについて言うと、子供たちが結構綺麗な格好してやってきているのに、ペイントマーカーで汚れちゃったみたいところで、お母さんが残念な顔をしながら、しょうがないわねっていう感じだったのがよかったなと思いました。

5月11日からオープンフォレストを開催するのですが、草花あそびの流れを受けて、私が活動する森でも何かそれに関連するものをやることにしました。花を紙に押し当てて叩いて、模様を写したものに紐を通してシオリにすることをやってみようかと思います。

委員

千葉大学の方で出展しました。草花あそびについては、メインのターゲットはお子さんとその親世代になると思うのですが、我々大学生も草花あそびに興味を持てたことから、草花あそびの懐の深さを感じた次第でございます。メインに据えたターゲットがありつつも、やはり幅広くみどりに関心を持つきっかけになっていると強く感じました。

我々のところでは、主に樹林地の管理の過程で出てくる発生材について、活用方法を模索するということで、薪やウッドチップとして使うみたいな話がございしますが、こちらについて、皆さんだったらどういう使い方をしていきたいか。というようなニーズの把握をいたしました。結果については分析中なのですが、なかなか薪とかになるとハードルが高いのかなと感じております。より生活の中で、そういった資源を活用できるような方法や仕組みを考えていきたいと思っております。

委員

松戸花壇づくりネットワークで参加いたしました。

当会は毎回のことながら、お花を無料配布させていただいています。無料配布に長い列ができ、お花が足りるか、並んでいただいてお渡しできなかったらどうしようという毎年の心配が続くぐらい好評でございました。

2月から種をまいて、配布の準備をしまして、大体1500苗ぐらいを目標に育てていたのですが、天候不良のため、当日配布できたのが大体800苗程度でした。こちらはおかげ様で好評でございました。

ブースを手伝った会員からは、子どもが少なくなっているという声が随分出ていました。来てくださる子どもさんは年齢がバラバラでたくさん参加してくださっているようでしたし、私どものところはちょうど真ん中ぐらいでしたので、シャボン玉のところへ流れていく通路ですので、「すごく子どもがいるな～」と思っていましたが、コロナの前の頃はもっと子どもがいたように感じます。花が好きですという方がたくさんいらして、今日はみどりが映えてよかったねと仰ってましたので、天候も随分左右するのだなと思いました。

委員

緑のネットワーク・まつどで出店しました。活動紹介の展示のほかに、今まで回ってきたコースを地図にしたものを7種類くらい自由に持って帰っていただけるようにしました。

自分の身近なところのみどりの散策ルートに、試しに歩いてみたい、ここ知っている、自分の方が詳しい情報を持っているという方もいらっしゃいました。もう少しアピールしてもよかったかと思えます。

それから上野さんと現地で話をしたのですが、来場される方の傾向は少し変わってきていると思います。ここ数年のコロナ後ですが、家族連れのお子さんが低年齢化していて、小学生が非常に少なく未就学児が多いと思います。

小学生を連れている家族連れの滞在時間が短くなっているような気がします。そう言い切れるかわかりませんが、そのように感じました。

それから、高齢の方々の目的は、購買や配布物だと思うのですが、みどりを入口にして楽しもうというのが、なかなか傾向として見えてこないと思いました。

隣で里やま応援団が花を売っていたのですが、興味のあるものがあると、そこからこれはどう育てる、どんな花が咲くかというように話題が広がっていました。そういう入口づくりのようなどころにもう少し工夫をしていくことで、身近なみどりとつないでいくと良いのではないかと思います。先ほど平岡委員がおっしゃったように、草花あそびを材料にして入っていくなど、身近なところとつないでいく、そういう見せ方やアピールの仕方を工夫していく方がこのフェスティバルらしくなっていく気がします。

対象年齢が低くなると、お母さんたちもそれに合わせて楽しもうとしますので、草花あそびはその点においてはちょうどよかったと思います。

そうするとその次の年齢、或いは高い年齢に対してはどうなのか、アプローチの仕方が大切だと思いました。

会長

メッセージブックは、これまで緑推進委員会でいろいろ議論しながら、或いは手伝ってもらいながら、最初の1号を配布できてよかったと思います。

もともとなぜこれができたかというのを振り返ってみると、みどりの基本計画を作って、それをアピールしなくてはいけないという話から始まっています。普通は、みどりの基本計画のエッセンスを何ページかにした概要版をよく作るのですが、この緑推進委員会ではそれでは伝わらないのではないかとこのところから始まっています。そういった意味で、今後継続していくことが前提になろうかと思いますが、こういう形で出てよかったと思います。

みどりの基本計画では暮らしとの繋がりを強調していますので、別世界のものではなく、身近にあって、暮らしと繋がっているということを、理解してもらうことが大事です。みどりが好きでない人をどうやって仲間にして、裾野を広げていくかということがやはり大事だと思うので、このメッセージブックは割と好評は得ていると思っています。

それから緑と花のフェスティバルに関して、色々な団体の方がいてみんなが集まるのに、自分のところを回すのに精いっぱい話す機会というのが、あまりないということを感じましたので交流会のようなものがあるとよいと考えています。

みんなが集まってやっているのだから、コンセプトがそれぞれ違い、多様性があるといいことだとは思いますが、先ほど言った交流とか、委員がおっしゃっていたように種を拾ってそこから作るみたいなことをやりたいですね。それをやるには別のセットの仕方をしないとできないかなと思い

ます。

それから、来場数は少なかったと感じていて、1万3000人というのは入園者数ですよね。入園者のうち緑と花のフェスティバルに来てくださった人がどのくらいなのかということが重要で、遊具ができたり、いろいろなインパクトがあるので小学生はそっちに行ったり、そこでお兄ちゃんたちと一緒に遊ぶと危ないから小さい子どもたちはこっちに来たのではないかなど、色々な想像ができますが、統計のとり方として緑と花のフェスティバルの効果を見ようと思えば、全体の入園者数だけではなく、南口を通った人、こっちに来た人というようにカウントしないと、傾向をつかめないと思います。

事務局

緑と花のフェスティバルで松戸市広報広聴課シティプロモーション担当室の職員にフェスティバル会場を見ていただきました。

12月に晴耕雨読という地域情報誌に松戸のみどりの特集を出していただくことになっています。その担当の編集の方とシティプロモーション担当室の方と一緒に来ていただいて、2時間ぐらいかけて、みどりの関係するブースを説明しながら一緒に回っていたのですけれど、とても感心してくださいました。どこに行っても皆さんがしっかりとみどりの話をしてくれると喜んでくださいます。次の日に見本でみどりの基本計画を3部くださいと言いに来たぐらい関心を持っていただけたことをご報告させていただきます。

会長

私も少しお話ししましたが、すごく関心を持っていただいているなと思いました。

委員

アンケートを拝見していると、モリヒロフェスタも緑と花のフェスティバルもみどりの基本計画の認知度が低いと。聞いたことがないという人が割合的に一番多くなっているのが、致し方ないことですが残念だと感じました。でも、委員の皆さんが言われたように、メッセージブックを通じてみどりの基本計画の存在というのがアピールできていると思いましたので、それは非常によかったなと思います。

会長が言われたように、概要版ではなくてこういう形で、定期的にPRできていくと、みどりの基本計画にアクセスしてみようと、見てみようという人も出てくると思いますし、みどりと花の課にもらいにきてくれた方もいらっしゃってよかったなと思います。

会長

反省点も含めていろいろあるかと思いますが、これで緑と花のフェスティバルの反省会を終わりにしたいと思います。

議事3) 提言及び活動報告について

事務局

それでは、議事3 第12期緑推進委員会の提言および活動報告についてでございますが、事前に「提言の鑑」「提言および活動報告」「第13期委員会へ引継ぐ課題」「参考資料」（案）を皆様に送付しております。本日は、それを踏まえて、ご意見を頂きたいと思います。

また、お送りした際に、藤田博美委員と藤田隆委員より修正事項がありましたので、本日は修正したものを皆様にお配りしております。

修正箇所でございますが、活動報告書、14ページ花づくり体験講座の写真と参考資料6ページの右側の写真が入れ替わっていましたので、正しい位置に修正しております。

また、活動報告書、20ページ③みどりのプラットフォームについて、下線でなみ線を引いているところをいただいたメールを基に、内容を修正しております。本日いただいた意見をもとに報告書をより精度の高いものとしたいと思しますので、よろしくお願いいたします。

会長

それでは、提言書の内容について検討していきたいのですが、20ページ、21ページの第13期委員会へ引き継ぐ課題と、この資料の鑑になる提言の内容が重要だと思うので、この部分でご意見いただければと思います。

委員

鑑文の2行目は、「第11期松戸市推進委員会委員会」と書いてあり、委員会がダブっていると思います。

それと、20ページ1行目について、第12期委員会へ引き継ぐ課題ではなく、第13期委員会だと思います。

また、真ん中辺りの「なお、今後のメッセージ作成については～」のところで、緑推進委員会は発刊の滞りや、市のプロダクトにならないように監視を行うと書いているが、市の成果品という意味の表現なのでしょうか。監視という言葉はきついと感じました。

その下2行目の市内市外というところは市内外で良いと思います。

②みどりを取り巻く環境についての1行目から3行目にかけて、「など」「ついて」という言葉が続いて、文章のつながりが理解できなかったです。

会長

ありがとうございました。ご指摘のうち3つについては、修正いただければと思います。2つ目の「市のプロダクトにならないよう監視を行う」これが何を意味するのか、普通の人を読んで伝わるかなと。ここはもう少し説明いただければと思います。

事務局

以前の委員会での発言で、メッセージブックを作っている過程で、こちらの内容が市の事業を説明するようなものになっては駄目ですよという話があったと思います。あくまでもみどりを舞台に活躍をされている個人の方を紹介するとか、事業を広報する場所ではないということで、こういう形で書かせていただきました。もう少し良い表現があれば、ご意見いただきたいと思います。

ので、よろしくお願いします。

委員

前回委員会に出られなかったが、これは提言になっていないと思います。ここまでやってきますという状況の説明だけをしていて、これをやりますという提言がない。

後ろの方の引き継ぐ課題も、現況のことを引き続きやりますということで、そこに次のステップのためにどういうことを試行していくか、どういうフェーズにこれから入っていくというようなイメージが全く伝わってこないと思っていて、この提言はかなり消極的な感じがします。

前から議論になっていることの1つに、今までは市民と行政が一緒にできることを様々な形で試行してきて、それでうまくいっているものもあるし、うまくいかなかったものも結構多いです。

でもそういうものをこの委員会で試してきて、その成果というのは、みどりの活動のいわゆる市民力のリソースになっている。

行政力をどうやって高めていくっていうのがもう1つの課題で、みどりに関わる市民力をサポートしていく体制とか制度っていうのはどう作ってもらうか。

それがないといくら私達が活動していても、森は実際に減っていくわけですし、農地も減っていくわけです。そこから成果を上げたり、活動の場にしていく層もやっぱり弱体化していきます。

ですからこれから検討して、この委員会で考えたり試行していくべきことは、それをどうやって食い止めていくか、いい方向にもっていくか、市民にそれをどう理解してもらうか、ということだと思うのですが、これまでやってきたことを踏まえて次にという姿勢がここにはないと感じます。

会長

これは市に提言するものだからという指摘が以前にもありましたが、緑推進委員会としてこういうことをやってくださいということを書くものだというお話がありましたので、そのように書いてください。

世の中がいろいろ変わってきている中で、行政としてやるべきことがたくさんあるのではないかな。もうすでにある程度動きつつあるようなフォレストマネジメントについては、「みどりを取り巻く環境について」で2行だけ書いてあるのですが、そういうところを緑推進委員会としてやってくれと物申さないといけないのかなと思います。

これでは「なんか頑張ってきたのに」っていう気がしてしまうので、こんなことをやるべき、こういうところをもっと強調すべきだということを今日おっしゃっていただければなというふうに思います。

委員

話題としてはちょっと違うかも知れないけど、木育という埼玉大学の浅田先生がやっているものがあります。

この先生は木工の先生で、木を使った子育てであつたり、木を使って遊びを作っていくことを広めているちょっとへんな集団で、学会のような集まりの中で何とか仮面が出てきたりする面白い集団なのですが、そういうのをきっかけにして子供たち、親等を巻き込んだ、木育を軸にした繋

がり方みたいなことをやっています。

市民活動とかいろんな活動をしていくときに、今まで私たちのフォーラムでいろんなジャンルのまちづくりとか、お料理だとか、子育てだとか、そういった繋がりを作ってきましたが、これからどう展開していくのかというところの話なのかなと思う。

例えば、ちば里山センターと緑化推進委員会っていう千葉全体の森林とかを考えるとところの中では、冒険遊び場とか里山づくり、里山保全みたいなグループと一緒にイノベーションハブみたいなものを作って、お互いに小学校の子供たちを呼んできたりするときに、どこかが主軸になって、どことくっついて子供たちをどういうふうにしていくのかという、仕組みづくりみたいなものが始まっている。

これからは、私たち松戸市のみどりと花の課、又は松戸市全体としてどちらの方向へ行くのかっていうのが問われると思います。

なんかそういうふうに、状況としてはそっちの方向にもうすでに動いているのではないのかなというふうに思っているので、波線のついているところの話を引っ張り出して、いわゆるそういう交流はしたけど、どちらの方向へ行くのかという方向性をもうちょっと出した方がいいような気がしました。

会長

プロモーションとプラットフォームの話が大きな項目になると思いますが、今の藤田隆委員の意見はプラットフォームのことですね。

委員

緑地の保全は里やま活動をやっている側としては、活動するフィールドそのものが損なわれる現象が、みどりの減少に直接繋がる。

そこをこれからどのような仕組みや制度で食い止めていくのか、基本計画に関わることをどうやって具体化して、仕組みとして作っていくか検討していく必要がある。

そこをしっかりとしないで「市民と行政と協力してプラットフォームを作ります」と言っても機能しなくなります。

そういう最も基本で大切なところというのは市として考えてもらわないと、ということがこの委員会からの提言に当たるのではないかと思います。

会長

今のことに関連して言うと、緑地の保全はベースがあり、その上に緑地保全に関する活動があり、パートナーシップがあると思います。「秋山の森」に代表されるように、そのベースというものが、損なわれつつあります。「秋山の森」は特別保全樹林地区に指定されておりました。これは市の条例の中で指定されているものですが、実態としてそれでは守れませんでした。

あれだけのスペースと活用法があり、なおかつ、オープンフォレストでの利用まで含めると、かなり公益的な森でしたが、それも一瞬でなくなってしまうということが現実です。

それを繰り返しているということが、リアルな実態だと思います。

あとは市の方で市街化調整区域の開発の方針が先日示されたと思います。その中でもどのよう

に扱う必要があるのか、森や農地を守りながら開発を行うと記載されているところもありますが、それは書いてあるだけで、実際に担保するためには何が必要になるのか、こういうことは本気で考える必要があると思います。

一方で現在、都市緑地法の改正が提案されることになり、そこでは特別緑地保全地区の買い取り等の維持管理、機能増進について、かなり力を入れているようです。施行が10月なので今この段階で記載することは難しいと思います。国としても力を入れていく方針があるため、フォレストマネジメントを進めていくということがあると思います。

それについての態度や立場を明確にすべきだと思います。

それから制度との関連で言うと、森林環境譲与税をどのように活用していくのかということも重要なポイントだと思います。

松戸市のような市街化が進んだ都市にもそのお金の配分があるわけです。松戸市の場合は林業を行うわけではないので、それをどのようにリアルな樹林地の保全に活用できるのか。

これも大事なことなので、緑推進委員会としては詳しく記載していいのではないかと思います。現在の樹林地保全について言えば、「そういう状況があるので、こうします」ではなく、「こうしたい」ということを書く必要があると思います。

フォレストマネジメントについては施政方針にも記載がありましたので、次期委員会の目玉になると思います。財源などのお金の話と、フォレストマネジメントという評価から展開していく話と、国の制度の活用の話、その辺を絡めて書くといいと思います。

委員

少し前に示された市街化調整区域の開発の方針では、結局は保全を優先すると言いつつも、開発はできる形です。

しかし、これからの方向性としては、住宅をどんどん作る考え方よりも、残っているその環境を使って、どのような街づくりをしていくかという考え方の方が、これからの世の中らしい姿勢だと思います。

そう考えると、先に我々の方で「単に保全を優先し、残す」という姿勢だけではなく、その活用のあり方を変えることや「これからの時代に合った活用の仕方の提言を考えましょう」くらいのことまで書いてもいいのではでしょうか。

フォレストそのものは緑地の象徴として、その言葉を使えばいいので、農地であったり、それらに共通する理念として扱えば、いいワーディングです。

委員

2番の「みどりを取り巻く環境について」で書かれていることが少し抽象的だと思います。

次期の委員会で、フォレストマネジメントが重要なテーマになるということですが、フォレストマネジメントにおいて、現状の課題やその状況、取り巻く環境について、ここで明記をする必要があると思いました。次期に入った段階で、その課題について、見直し検討するところからスタートするのか、現状この提言を出す場において、課題があるけれどもそれに対して支援のあり方などを考えていく必要があるというふうに書く必要があるのか、どのような課題があるのかを把握することも、その次年度のやることの中に入るとのか、どうなのでしょう。

会長

提言ですので、「こうして欲しい」「こうすべき」ということが根幹になります。
「課題をはっきりさせるべきだ」という提言もなくはないと思います。

委員

課題がある前提で進めるべきということでしょうか。

委員

できればその方がいいです。

委員

仮にここに書くべきだとした場合、どのような課題があるか。
樹林地を守っていかなければいけないという話は、何となくわかりますが、具体的に保全活動をする中でどういう弊害があるのか。
実際に活動されている側から見て、解決すべき課題はどのようなことなのでしょうか。

委員

端的にいうと里やま保全をする後継者がいない、5年後10年後といった未来に保全活動を続けられるような状況・状態ではなくなることが考えられます。
一方で、メッセージブックで37歳をターゲットにしましたが、例えば秋山で「Save The Green@ Akiyama」のマリアさんなどの子育て世代が入ってくるグループが船橋や市川、流山ではそのような動きがあり、若いグループで保全活動を始めているという状況もあります。
また、会長や委員が研究されているような、森から出た端材をどういうふうに活用していくかみたいなこと、薪として使うとかそういう生活レベルで、若いグループの中にも関心を持って自分たちで考えていくスタイルが、少しずつですができてきていると思います。

委員

活動側の課題の背景には土地の問題があると思います。
今の地権者は樹林地を残し、次に引き継ぎたいと考えていても、その下の代の人が不必要なために売却をすることがあります。
緑地の世代間での継承が、最近では途切れそうなところが増えてきていると思います。
引き継ぐ側にメリットを感じられないということも原因だと思います。そのような世代が増えてくると、確実に減っていく、すると私たちの活動の継続が危ぶまれます。
そこに刺さるような施策、仕組み、投げかけ方が何かないかということが1つ大きな課題だと思います。
活動側の課題はそこまでありません。20年間活動してきましたので、継続はできますが、課題はそれを取り巻く環境だと感じております。

委員

この環境という言葉は、すごいトリガーだと思っています。ただこの言葉だけでは、余りにも漠然としていますので、この緑推進委員会として、何が出来るかを立ち返ると、プロモーションや、基盤であるプラットフォーム、ここに対して、非常にインパクトのあるもの、刺さるものがないと提言になり得ないだろうと思います。

先ほど委員が言われたように、みどりが好きな側の人材の年齢の問題であるとか、そういったことを知らせるきっかけづくりとか、自分たちの努力で何とか解決を見出せる問題もありますが、実態としては、みどりを持つ地権者であったり、行政側としての法制度などの中で、明らかに年々減少してなくなっていく現実があります。

それを食いとめるようなアイデアであったり、発想を作り出さないといけないと思いますし、我々から意見を出していくことが必要だと思います。

プロモーションにおいては、もっとこのデジタルみたいなキーワードをきっかけにして、他の媒体とか、他の仕組みとかを活用した形で知らせる周知の方法であったり、プラットフォームについても、もっと踏み込んで、企業との連携とか気軽に参画できるような仕組み、そこまで踏み込んだ意見みたいなものを盛り込みたいなと思いました。

会長

今の地権者の関係とかの話で行政としてできることは、極端な結論としては、特別緑地保全地区に指定するとか、買い取るという話になってしまいますが、少なくとも今回のフォレストマネジメントという概念の中には、そのことが、含まれているはずです。

全ての今残っている緑地に対して投資をして、それを保全していけるかということ、それがなかなかむずかしい。買い取るとなるとお金の関係とかになるので、「公益性の高いものです」とか、何か本当に保全したい部分については、それなりの論理、評価をする必要がある。

その評価に基づいて、行政としてもお金を入れるとか、或いは民間投資を引っ張ってくるとかの努力をしなければならないと思います。

ここに「評価や管理手法、支援のあり方など、現在の保全施策を見直すこと」と書いている裏には、そこまでのフォレストマネジメントの考え方があるはずです。

フォレストマネジメントという言葉だけではハッキリ分らないと思いますが、みどりの基本計画を作って、それを本気でやりましょうというのが、一番の肝になると思います。

委員

その課題が2番の一番下の2行だけあればいいという中身なので、これをなぜやるのかということが大切だと思います。

「評価管理手法を考え直します。」「それはプラットフォーム運用のため作ります。」「そのための必要な基盤のものというのを、市がきちんと手当してくださいよ。」ということが提言になるわけです。

この文章では、その関連がよくわからないので、そこをきちんと伝わりやすいものに整理してほしいです。

会長

癒しの効果とか炭素の固定とかの一般的に言われていることや、国際的な動きの中で30 by 30やネイチャーポジティブみたいな動きというものと、松戸のみどりをどうするかというのが繋がっていない。

例えば自然共生サイトに、松戸の森の中で1箇所だけ里やま活動をやっているところとは別のところが認定されたと聞いてます。その自然共生サイトとかを本気で一生懸命やって、企業のお金をもらってくるというのだったら何か繋がりが出てきますけど、今のだと全く別になっていると思います。

委員

あいまいな表現になっていますが、松戸市ベースの施策に繋がっていくような書き方がいい「そのために必要な制度開発をなささい」というのが提言になります。

委員会でこれからやっていこうとする方向、みどりの基本計画の目指す方向について、それと重なり合う方向の制度開発をなささいということが必要だと思います。

会長

いろいろな観点があると思うのですが、「市として何に力を入れるべきだ」ということを入れないといけない。

- 1、「プロモーションに力を入れるべき」
- 2、「緑地保全に力を入れるべき」
- 3、「プラットフォームの形成・促進に力を入れるべき」

ということになるのかなと思います。

2番でいうと、「こういう施策を国の動向も見ながらやるように」、この辺も絡めて書かないといけないのではないかなと思います。

委員

私は途中からになりますが、この1年間活動してきて、メッセージブックなどのプロモーションを主体に、ここでいろいろ議論してきました。一方でこの4項の13期委員会へ引き継ぐ課題というのは、12期の活動を基にして「13期委員会はどうするのか」というものかなと理解しています。

先ほどの会長からお話いただいた色んな構想は12期の委員会でどれくらい検討されたのかなというところが途中からの委員ですので十分な理解ができていないですが、もし12期委員会の中で十分な検討がされてないのでしたら、「そういった重点事項を第13期で検討しよう」とか、そういった書き方もあるのではないかなと思いました。

会長

13期としてやっていくための課題認識では、1の編集をどう引き継ぐかみたいな細かい話まで含まれていて、そこでやってきた議論は、ここに入り得ると思います。

我々がいろんな課題全部を議論できたわけではなくて、みどりの基本計画という一番の教科書があって、その中で我々が議論できたのはプロモーションとプラットフォームのごく一部になります。

す。

そこから積み上がってくる課題なり提言という形と、それからここで前回、前々回から議論している中では、他にもみどりの基本計画の中でやらなければいけないことが、我々はできなかった。それも含めて提言しておかないといけないというのが、私の認識です。

ですので、みどりの基本計画なりを見ていただいて、今話し合っただけでここ足りないよねということも含めたい。

今ここで出てきているのは、樹林地の保全というものに対して、いろいろ危機的な状況ということが迫ってきている感覚があるので、それをどうするかというのを、もっとちゃんと書くというのではないかと思います。

フォレストマネジメントについては、みどりの基本計画の中でも、さっき言った「評価とかの話は大事だから動かそうよ」という話になると思います。

金ヶ作育苗圃とかその周辺地域を活動拠点にしましょうという形で、実際に私と木下委員がいろんな調査みたいなものをお手伝いしているわけで、その機運としては千葉大学園芸学部という資源を活用しながら、みどりの基本計画に関連しています。ここで集中的には議論はしてないけど、別のところで動いている状況があるので、それを踏まえて整理してもいいのではないかなと思います。

ここだけの議論だと、「メッセージブックをちゃんとやりましょう」とか、そういうふうになってしまう気がします。

委員

シティプロモーションは手法の部分ですが、その基になっているのは教科書であるみどりの基本計画です。私たちがこれから何に関わっても、それはみどりの基本計画の実現ということに繋がっていく。それが1つの目標です。

委員

この場でそういったことを議論するということであれば、すごく理解しやすいです。

会長

プラットフォームの中に、市と千葉大学がやっている取り組みがありまして、囲いやまの森と金ヶ作育苗圃をリンクさせて、みどりの良さを伝えていきながら、もっと広めていこうというものがあります。

こちらはグリーンインフラやリサイクルの話になりますが、新しい動きの普及啓発をしたり発信していこうということも大事ですし、市にやってもらえるようにしたり、その動きをここで後押しすることも必要なことだと思います。

委員

こちらはいつまでに作るものになりますか。

事務局

資料4をご覧ください。

今日ここで話した内容とか、このあと気づいたことについては、来週月曜日ぐらいまでにメールとかでご連絡いただきまして、修正したものを24日ぐらいに、お示ししたいと思っておりましたが、その前に、提言（案）と第13期に引き継ぐ課題について、本日いただいた意見と、この後メールで意見を受けて修正したものを、一度5月14日を目途にお示します。

それについて再度ご意見をいただいて、修正し6月10日から12日くらいの間で会長に最終確認をお願いしたいと考えております。

会長に確認いただいたものを6月14日に皆様に送らせていただいて、6月24日の委員会で松戸市に提出するということを考えています。

課題とか提言のところについては、事務局で今日の内容を取りまとめて、至急修正したいと思います。こちらは出来次第送りますので、ご意見をいただきたいと思います。資料やご意見はメールでやりとりさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

委員

緑推進委員会の提言というのは、筋から言えば、委員会自身がまとめなければいけない。事務局は行政側ですから、書きにくい部分もあるのではないかなと思いました。

本当は我々が書くべきものだと思いますが、今回は事務局に書いてもらうということで、今日委員の皆さんから意見が出ましたので、それをそのまま文字起こしして並べて提言にした方がストレートに伝わるのではないかなと思いました。

課題の部分は、方針があってその方針に基づいて今期は、こういう活動をしました。でもこういう課題が残りました。それを踏まえて次期委員会へ提案、それから行政への提案も含めてこういう提言をしますという形に、課題と提言を分けた方が理解しやすいかなと思いました。

委員

みどりの基本計画の中で大事だということが、いっぱい書かれていますけれども、予算的にどういうふうに増えているのか数字的にお答えいただける範囲で聞かせていただきたいです。

どうすることが大事という文字を実現するためにはお金が必要となりますので、そのあたりをお聞きしたいです。

事務局

例えば去年と今年で違うところについては、森林環境譲与税を、少し活用することができました。それで里やまの危険木を処理する事業が大きくなりましたが、その予算については10倍ぐらいの規模になっています。

また、フォレストマネジメントの関連業務についてもコンサルにサポートしてもらうような予算は確保しています。

委員

1年間市民委員として委員会に参加しましたがけれども、里やまの保全が大事だということを、市民の人たちにいろいろ知ってもらおうと。だから「みどり」というものがすごく重要なんだよとい

うことを知ってもらうということで、いろんな催し物をやったりメッセージブックを作ったりする運動があるというのは理解できました。

けれども、本当に大事だと言われていることに対して、お金のことは行政としてどういうふうに予算をつけてきているのかが見えないです。

先ほど委員もおっしゃっていましたが、所有者の代が変わると、売却した方がいいと、相続したら相続税がすごく取られてしまう、いろんな問題があるのだろうと思いますけれども、そういうものに対して、みどりが大事だと松戸市が旗を振っているのであれば、どれだけその改善のための予算を年々つけてきているのか、それを委員として知りたいです。

事務局

みどりだけではなく福祉など全部含めて限られた財源となっています。その中で松戸市が、どこにウェイトを置くかは、我々が一生懸命仕事してるだけではなかなか反映されない部分があります。

みどりの基本計画をしっかりと作った上で、特にここに力を入れていきたいというところはちゃんと上の方にアピールしていますし、それが反映された一部が、総合計画の「桜並木の再生」や市長の施政方針で「フォレストマネジメント」として具体的に言葉になったり、文字になったりしてくるわけです。

そういった部分については、当然予算が増えてきますが、満遍なくみんな毎年毎年増えてきますよということではないです。

委員

市長が力を入れて政策を訴えたところについては、例えば3年前の予算から比べて、これだけ増えましたとか、そういうこと具体的な数値を一人の市民としてもう少し情報を提供してもらいたいと思いました。

会長

今の話と提言がどう結びつくかというのは、樹林地の保全とかに対しての財源の確保というところになるかと思います。

ですが、「予算が幾ら増えた」というのが提言とは直接結びつかなくて、行政がやっている色々な事のひとつとなりますので、我々としては「今回これを重点置いてくれるといいな」ということを提言する。どこにお金なり力を入れて欲しいのかということをごここで表現することが大事なかなと思います。

先ほどの委員の意見については、実はこの提言を昔は小委員会というものを作って、私とか委員とかが、書いていました。ですが、作業としても大変だということもあるので、そのあたりはこのようなやりとりの中でくみ上げていきたいと思います。

最後は全部会長が確認するという形になりますけれど、その前提には皆様がどういうふうに思われたかということが正確にはっきりと伝わらないと、委員会としての提言にならないので、皆様には協力をお願いしたいと思います。

今後、事務局からこの委員会の意見を反映したものが皆様のお手元に届くと思いますので、それ

にご意見をいただく、それをまた汲み取って、事務局は原案つくります。

我々の意思が反映されているかどうかですが、最後の土壇場は会長に一任してもらう形になろうかと思しますので、そのようなつもりで意見をたくさんくださいというのが、今日の最後のお願いでございます。

事務局

今日の全体の流れを確認させていただきたいと思います。

第13期委員会へ引き継ぐ課題として、河野委員がおっしゃってくださったように、ここで1年間2年間どんな議論をしたか、議論をした上での次のステップというところはまずベースになると思います。

その上で、まだ役所が弱い部分や、これから踏み出さなければいけない部分というところで、この中では2のみどりを取り巻く環境という言葉になっていますけれども、ここで緑地の保全について表現していきたい。

そういう2つの考え方の中で、引き継ぐ課題を取りまとめて、鑑の提言文書につなげるというところを、全体の流れとさせていただきたいと思いますがいかがでしょうか。

会長

その流れの中でやりとりさせていただければと思います。

あと次世代のみどり人材とか、キーワードが出てきて、それで枠組みが足りなくなったら、多少アレンジさせてもらうかもしれませんが、よろしくお願いいたします。

議事4) その他

会長

何かございますか。

事務局

第13期委員会の市民委員を募集しましたので、応募人数について報告させていただきます。

定員6名のところ、8名よりレポートの提出がございました。

選考につきましては、レポートをこの後の選考委員会で決定します。

会長

では、議事については以上とします。

連絡事項

公園緑地課

第39回マгноリア・コンサートについて

日時：2024年5月12日（日） 午後1時30分開場 2時開演

会場：東松戸ゆいの花公園

21世紀の森と広場管理事務所

21世紀の森と広場の入園者数について

期間：4月27日（土）から5月6日（月）まで

入園者：約6万8200人（去年比+1000人）

事務局

第11回緑推進委員会について

日程　：6月24日（月）

時間　：10時～

——閉会——